

教科(科目)	地理歴史(歴史総合)	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	実教出版 『詳述 歴史総合』				
副教材等	実教出版 『詳述歴史総合 徹底整理演習ノート』 浜島書店 『新詳 歴史総合』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 多様な考えを尊重し、協働的な取組をとって最適解を求める資質・能力を育成します。 ② 礼節を重んじ、感謝の気持ちを持って社会に貢献しようとする資質・能力を育成します。 ③ 知的好奇心と創造力に富み、生涯にわたり主体的に学び続ける資質・能力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 全日制普通科の高等学校として、生徒一人ひとりの多様な進路に対応するために、知・徳・体のバランスのとれた総合的な力をつける教育活動を展開します。 ② 協働的な学びを進めるために、ICTを効果的に活用したグループ学習や課題探究活動、プレゼンテーション活動などを、「総合的な探究の時間」を始めとした各教科の学習に取り入れます。 ③ 地元の行政機関や大学、企業等と連携して、地域を知り、地域に貢献し、さらに全国的、世界的な視野をもてるような活動を教科等横断的に行います。 ④ 生徒の主体的な活動を支援し、多様な人や考え方と接する機会をつくるために、生徒会活動や学校行事等を充実させます。

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりする力を養う。
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

- ① 世界と其中における日本を広く相互的な視野から捉えて、近現代の歴史理解を深めることを目指します。
- ② 歴史的事象の時期、推移や変化に着目して、事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を身につけることを目指します。
- ③ 諸史料から情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につけることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 ○諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	○近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想しようとしている。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	○よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。 ○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に学び、解決しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト ・演習ノート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト(論述問題等) ・演習ノート (Try の部分) ・調べ学習(レポート) などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・調べ学習(レポート) ・演習ノート などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動 (指導内容)	評価の方法
4	歴史の扉 第1編近代化と私達 第1章近代化への胎動	7	歴史と私たち 歴史の特質と資料 17世紀以前のアジアの 繁栄とヨーロッパの海外進出 1. ヨーロッパの海外進出と市民社会 2. 清の繁栄 3. 東アジア諸国間の貿易 4. 江戸時代の日本の対外政策 5. 江戸時代の社会と生活 ACTIVE: アジアの繁栄とヨーロッパ	・高校の歴史学習の動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につける。 ・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から情報を読みとったり、まとめたりする技能を身につける。 ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会やヨーロッパの近代市民社会を理解する。	授業の取組 演習ノート
5	第2章 欧米の市民革命と 国民国家の形成	7	17世紀以前のヨーロッパの主権国家体制 6. イギリス産業革命 7. アメリカ独立革命 8. フランス革命とナポレオン ラテンアメリカの独立 9. ウィーン体制 10. 19世紀のイギリスとフランス	・18世紀のアジア諸国とヨーロッパ諸国の経済が互いに与えた影響などに着目する。 ・アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。	授業の取組 演習ノート 定期考査 ノート提出
6	第3章 アジアの変容と 日本の近代化	8	11. イタリア・ドイツ統一 12. 東方問題と19世紀のロシア 13. アメリカの発展と分裂 14. 世界市場の形成 15. イスラーム世界の改革と再編 16. 南アジア・東南アジアの改革と再編	・産業革命と交通・通信手段の革新、工業化と世界史上の形成、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ・産業革命はなぜイギリスではじまり、どのように発展したのか理解する。 ・アメリカ独立革命の意義と課題を考える。 ・フランス人が革命でめざした社会を考える。 ・ウィーン体制がフランス革命で芽生えた自由主義やナショナリズムを抑える反動体制であったことに気づかせる。 ・同時期に国民国家を形成したイタリア、ド	授業の取組 演習ノート 授業の取組

7 ・ 8	9	第4章 帝国主義の時代	8	17. アヘン戦争の衝撃 18. ゆらぐ幕藩体制 19. 開国	・ イツ、日本の共通点と相違点を考える。 ・ ロシアが南下政策をすすめた背景、南下政策で生じた二つの戦争とその影響を考える。	演習ノート 定期考査 ノート提出 レポート
				20. 幕末政局と社会変動 21. 新政府の成立と諸改革 22. 富国強兵と文明開化 ACTIVE 文明化と向き合う東アジア諸国		
				23. 近代的な国際関係と国境・領土の画定 24. 自由民権運動の高まり 25. 立憲国家の成立 ACTIVE 議場が語る立憲制		
				26. 帝国主義と世界分割 27. 帝国主義期の欧米諸国 28. 条約改正 29. 日清戦争 30. 日露戦争から韓国併合 31. 日本の産業革命と社会問題 32. アジア諸民族の独立運動・立憲運動 ACTIVE 博覧会にみる近代 近代化と現代的な諸課題		
				33. 緊迫する国際関係 34. 第一次世界大戦 35. ロシア革命とシベリア出兵 36. 大戦景気と米騒動 37. ヴェルサイユ体制とワシントン体制		
10	11	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	8	26. 帝国主義と世界分割 27. 帝国主義期の欧米諸国 28. 条約改正 29. 日清戦争 30. 日露戦争から韓国併合 31. 日本の産業革命と社会問題 32. アジア諸民族の独立運動・立憲運動 ACTIVE 博覧会にみる近代 近代化と現代的な諸課題	・ 領土拡大の発展で、アメリカ合衆国ではどのような問題が生じたのか考える。 ・ イギリスを中心とする世界の一体化、さらに世界の距離を縮めた技術とその影響を考える。 ・ 地図を活用して、西アジアでのイギリスとロシアの対立に着目させる。 ・ イギリスによるインドの植民地化とその影響を考える。 ・ アヘン戦争とアロー戦争が生じた背景と結果、またその影響を考える。 ・ 産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目する。 ・ 条約締結をめぐる外交方針は、政治にどんな影響を与えたのか考える。 ・ 明治新政府が天皇のもとでの国民国家をめざした過程や制度改革とその影響を考える。 ・ 徴兵制、教育制度改革の目的と問題点、殖産興業政策の展開を考える。 ・ それぞれの資料を活用して、19世紀後半の東アジア各国のなかでも欧米の生活・文化に対する考え方が異なる点に着目する。 ・ 明治初期の対欧米外交交渉と、近隣諸国に対する外交方針を考える。 ・ 士族から農民にひろがった自由民権運動は、どのように展開したのかまた衰退したのか理解する。 ・ 大日本帝国憲法制定の経緯と特色を考える。 ・ 大問②の資料1～4、STEP 1～3を活用して、ドイツ帝国議会と日本の帝国議会の共通点と相違点をまとめる。 ・ イギリスに影響を受けた議会の想像図と、実際に開設された日本の帝国議会を比較し、それぞれのメリットとデメリットについて資料を活用しながら多面的に考察する。	授業の取組 演習ノート
				33. 緊迫する国際関係 34. 第一次世界大戦 35. ロシア革命とシベリア出兵 36. 大戦景気と米騒動 37. ヴェルサイユ体制とワシントン体制		
11	12	第6章 経済危機と第二次世界大戦	7	33. 緊迫する国際関係 34. 第一次世界大戦 35. ロシア革命とシベリア出兵 36. 大戦景気と米騒動 37. ヴェルサイユ体制とワシントン体制	・ 欧米諸国が世界を分割したこと、資本の輸出先となる植民地の有無が国家の経済発展を左右する要因となっていたことを確認する。 ・ 帝国主義期の欧米諸国の社会の変化を考える。 ・ 国内体制の確立、英露対立などの国際情勢によって進展した条約改正交渉を考える。 ・ 史料「脱亜論」を活用して、脱亜入欧の考	授業の取組 演習ノート
				38. 西アジア・南アジアの民族運動		

1 2 ・ 3	第7章 冷戦と 脱植民地化	6	39. 東アジア・東南アジアの民族運動 40. 戦間期の欧米 41. ひろがる社会運動と普通選挙の実現 42. 政党内閣の時代 ACTIVE20 世紀の女性と男性 43. 世界恐慌 44. ファシズムの時代	え方を確認する ・日清戦争後の列強による中国分割、日本国内の意識の変化を考える。 ・コラムを活用して、日本の勝利がアジア諸地域に及ぼした影響や失望に変わったことに着目する。 ・日本の産業革命の特徴と、世界経済における日本の位置の変化を考える。 ・資料を活用して、産業革命がもたらした影響、さらに負の側面に着目させる。	授業の取組 演習ノート
		5	45. 満洲事変と軍部の台頭 46. 日中戦争 ACTIVE 戦争をささえる社会 47. 第二次世界大戦とアジア太平洋戦争 48. 戦争と民衆 49 敗戦 ACTIVE 戦争の記憶	・バルカン半島でのヨーロッパの対立軸を考える。 ・総力戦のもとで高まった国家への帰属意識や植民地の民族意識の高まり、女性の社会進出について考察する。 ・ロシア革命とソ連の成立の歴史的意義を考える。 ・第一次世界大戦前後に日本の政治・経済・社会はどのように変化したのか考察する。 ・大戦後の二つの国際秩序の構築の過程と共通する目的を考える。 ・コラムを活用して、敗戦国への対応やアメリカの国際連盟不参加が次の大戦を招いたことに着目させる。 ・地図を活用して、長年にわたるアルザス・ロレーヌをめぐる独仏の対立を確認しておく。 ・第一次世界大戦後の西アジア・南アジアの民族運動の展開や列強の支配について理解する。 ・表を活用して、イギリスの大戦中の外交が現在のパレスティナ問題に与えた影響に気づかせる。	
	第8章 多極化する世界 第9章 グローバル化と現代世界		50. 国際連合と戦後世界 51. 戦後と占領の始まり 52. 民主化と日本国憲法 53. 冷戦の開始 54. 朝鮮戦争と日本 STEP UP 国際平和への動き STEP UP 戦後補償 55. 冷戦対立の推移 56. 植民地の独立と第三世界の出現 パレスティナ問題 57. 米ソ両陣営の動揺 58. 日本の国際社会復帰と高度経済成長 59. 石油危機と世界経済 近現代史のなかのエネルギー 60. 緊張緩和から冷戦の終結へ 61. 地域協力の進展 62. 日本の経済大国化 63. 冷戦体制の終結	・民族運動はどのように展開し、日本はどうかかわったのか考える。 ・写真を活用して、ヴェルサイユ体制に対するイタリアやドイツの不満に気づかせる。 ・写真、図版、史料 を活用して、社会運動を展開した人々が何を求めていたかを確認しておく。 ・政党内閣の変遷と、憲政の常道の意義を考える。 ・資料を活用して、20 世紀はじめの女性の社会進出と世界大戦の関連に着目させる。 ・世界恐慌に対する各国の対応とファシズムの台頭を考える。 ・ヒトラーがひきいるナチ党は何を主張しどのようにしてドイツの政権を握ったのか理解する。 ・国家主義が高揚し、軍部の影響力が増大していく過程を考える。	

		64. 地域紛争と世界経済 65. グローバルな認識へ ACTIVE 経済成長がもたらす課題	・日中戦争の勃発と展開の背景を考える。 ・写真を活用して、日本軍と中国の人々が互いを見る視点に着目させる。 ・日本の人々が戦時中に求められた生活様式を考える。 ・ファシズム国家のおこした戦争と展開を考える。 ・枢軸国の支配や日本のアジア支配にはどのような特徴がみられ、またそこにはどのような抵抗運動がみられたか理解する。 ・伊、独、日本の敗戦に至る経緯を考える。 ・会話文と写真を活用して、記憶を伝えるための方法には様々なものがあることを確認しておく。 ・第二次世界大戦後、人々はどのような世界をつくりあげようとしていたのか考える。 ・連合国の日本占領には、どのようなねらいがあったか理解する。 ・連合国による日本の民主化政策が社会に与えた影響を考える。 ・大戦後 10 年間の冷戦構造の構築の過程を考える。 ・アジアにおける冷戦は、日本の独立と安全保障にどのように影響したのか考察する。 ・写真を活用して、平和共存がすすむなかで、1960 年代に米ソの緊張が高まった二つの出来事に着目させる。 ・独立後の旧植民地諸国は、国際社会においてどのような動きをとったのか確認する。 ・パレスティナ問題が生じた歴史的背景について確認する。 ・パレスティナ問題が単なる宗教対立や民族紛争ではないことに着目させる。 ・1960～70 年代の米中ソの関係の変化とそれをうながした背景を確認する。 ・コラムを活用して、1960 年代後半、若者たちの抵抗運動の高まりと世界への広がりに着目させる。 ・高度経済成長の時代に、日本と欧米・アジア諸国との関係はどのように変化したのか理解する。 ・写真を活用して、石油危機が国際情勢に与えた影響に着目させる。 ・Approach を活用して、1970 年代に米ソの二極構造が崩れ多極化がすすんだことを確認しておく。 ・コラムを活用して、冷戦終結が新たな民族問題を生じさせたことに気づかせる。 ・日本の経済大国化と国際的地位の向上を考える。 ・冷戦終結による世界の変化を考える。	
--	--	---	---	--

				・冷戦後に生じた新たな対立や戦争を考える。 ・グローバル化がすすむ今の世界が抱える課題を考える。 ・資料を活用して、世界経済が直面している問題を確認しておく。	
--	--	--	--	---	--

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 単元ごとに演習ノートや課題プリントを提出してもらいます。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

歴史総合はこれまで「世界史」「日本史」と分けられていた歴史を、18 世紀以降の近現代史を対象に、世界と日本を「統合」して学ぶ科目です。日本と世界の歴史を一体のものとして学ぶことで歴史認識を深めるとともに、様々な事象に疑問をもち、それを解決するためにどうしたらよいかなど、自分の考えを深めていってください。(担当：和田 光浩)

教科（科目）	地理歴史（地理総合）	単位数	2単位	学年（コース）	2学年
使用教科書	帝国書院『高等学校 新地理総合』、帝国書院『新詳高等地図』				
副教材	とうほう『地理資料 2026』、山川出版社『データブック オブ・ザ・ワールド 2026』 旺文社『一問一答 地理ターゲット 2500 改訂版』、帝国書院『高等学校新地理総合ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 多様な考えを尊重し、協働的な取り組みをとおして最適解を求める資質・能力を育成します。 ② 礼節を重んじ、感謝の気持ちを持って社会に貢献しようとする資質・能力を育成します。 ③ 知的好奇心と想像力に富み、生涯にわたり主体的に学び続ける資質・能力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 全日制普通科の高等学校として、生徒一人ひとりの多様な進路に対応するために、知・徳・体のバランスのとれた総合的な力をつける教育活動を展開します。 ② 協働的な学びを進めるために、ICTを効果的に活用したグループ学習や課題探究活動、プレゼンテーション活動などを、「総合的な探究の時間」を始めとした各教科の学習に取り入れます。 ③ 地域の行政機関や大学、企業等と連携して、地域を知り、地域に貢献し、さらに全国的、世界的な視野をもてるような活動を教科等横断的に行います。 ④ 生徒の主体的な活動を支援し、多様な人や考え方と接する機会をつくるために、生徒会活動や学校行事等を充実させます。

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指します。

- (1) 知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

- ① 世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉えて、地理的理解を深めることを目指します。
- ② 地理的事象の推移や変化に着目して、事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を身につけることを目指します。
- ③ 諸資料から情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につけることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○地球環境破壊などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	○現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	○国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

学期	月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1	4	地図とGISの活用	地球上の世界 世界から見た 日本の位置と 領域	球体としての地球、緯度・経度の基本的な仕組み、地球上での位置の示し方を理解する。7図法によって異なる世界地図の特色を捉え、スケール、視点、図法などを変化させながら、世界における日本の位置を理解する。	8	定期テスト ノート（板書したことの点検） ワークシートの提出など。
	5		国家や国家間の結びつき 暮らしの中のGIS	グローバル化が進む世界において、国家間の協調や不均衡を理解するために、世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフのつくりかたを理解する。	8	

	6	地理的環境の特色	地形と生活文化 気候と生活文化	世界の大地形の広がりがプレートテクトニクス境界と関連し、変動帯に位置する場所では山岳地域や高原を形成し、地震あるいは場所によって火山を伴うことを理解する。 熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の各気候は、人々の生活文化とどのような関わりをもつのか、どのような生活の工夫があるのか、写真や雨温図などの資料から考える。	8	
	7 8		産業と生活文化 宗教・言語と生活文化	世界の生活文化が各地域の環境に基づいて発達する産業を基礎に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける第1次産業、第2次産業、第3次産業の地域的な特徴をグローバル化の視点で理解する。	9	
2	9	世界各地の生活文化	東アジア、ASEAN諸国、イスラーム圏、アフリカ	各地の自然環境や経済状況について理解し、今後、日本とどのような関係を築いていったら良いのかを考える。	8	定期テスト ノート（板書したことの点検） ワークシートの提出など。
	10		EUと周辺諸国、アメリカ・カナダ、ラテンアメリカ、オセアニア	各地の自然環境や経済状況について理解し、今後、日本とどのような関係を築いていったら良いのかを考える。	8	
	11	地理的課題と国際協力	地球環境問題、資源エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題	深刻な地球環境問題を生じている大気汚染、森林減少、砂漠化、気候変動について事例をあげて捉え、それぞれの影響と将来の予測から解決の取り組みについて考える。	7	
	12	生活圏の諸課題	日本の自然災害と防災	日本列島の地形と気候の特徴を主題図、グラフ、写真などの資料をもとに、多様性や自然の恩恵があることを認識しながら、自然災害を与える要素があることを理解する。	6	
3	1 2		防災への心構え	自然災害はどのような自然環境と関係しているのか、それに対する備えはどうすれば良いのかを考え、居住地域での防災・現在意識の向上につなげる。	8	定期テスト ノート（板書したことの点検） ワークシートの提出など。

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業時にグループ活動をおこなうことがあります。
- ・单元ごとに課題プリントの提出があります。
- ・長期休業中のレポートは別途指示します。

8 担当者からの一言

GIS、自然地理分野、その後、人文地理分野について学習していきます。それぞれの地域の社会・文化・経済が、なぜそのようなになっているのか、また、現状においてどのような課題・問題があり、どのような方法で改善していくべきなのかについても、今まで学習した他科目・教科の知識・技能を総動員して考えていく授業となります。一年間頑張って学習していきましょう。

(担当： 塚田 弘幸)

教科（科目）	公民（公共）	単位数	2単位	学年（コース）	1 学年
使用教科書	数研出版『改訂版 公共』				
副 教 材	とうほう『フォーラム 公共 2026』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 多様な考えを尊重し、協働的な取り組みをとって最適解を求める資質・能力を育成します。 ② 礼節を重んじ、感謝の気持ちを持って社会に貢献しようとする資質・能力を育成します。 ③ 知的好奇心と想像力に富み、生涯にわたり主体的に学び続ける資質・能力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 全日制普通科の高等学校として、生徒一人ひとりの多様な進路に対応するために、知・徳・体のバランスのとれた総合的な力をつける教育活動を展開します。 ② 協働的な学びを進めるために、ICTを効果的に活用したグループ学習や課題探究活動、プレゼンテーション活動などを、「総合的な探究の時間」を始めとした各教科の学習に取り入れます。 ④ 地元の行政機関や大学、企業等と連携して、地域を知り、地域に貢献し、さらに全国的、世界的な視野をもてるような活動を教科等横断的に行います。 ④ 生徒の主体的な活動を支援し、多様な人や考え方と接する機会をつくるために、生徒会活動や学校行事等を充実させます。

2 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ①現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。
- ②現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養います。
- ③よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めます。

3 指導の重点

『公共』は公民科に設置された新しい科目です。上記の科目の到達目標が達成できるよう、以下のように構成されています。

第1部『『公共』のとびら』では、現実社会の諸課題を見だし、解決に向けて選択・判断の手がかりとなる考え方や「公共的な空間」における基本的原理を学習します。第1部で学んだ考え方や基本的原理は、第2部・第3部の学習で活用されるものです。

第2部「自立した主体として社会に参画する私たち」では、政治、法、経済、職業生活、国際社会の分野ごとに学習します。第2部は5章13テーマで構成されており、各テーマは1見開きの「追究しよう」と複数の見開きの「本文ページ」で構成されています。各テーマの冒頭の「追究しよう」では、テーマに関する具体的な課題を設定して、追究したり解決したりする活動のプロセス（「つかむ」→「考える」→「まとめる」）にそって学習します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

学期	月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1	4	第1章 公共的な空間をつくる私たち	青年期と自己形成 人間としての自覚 日本人としての自覚	・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。 ・古代・中世・近世・近代の日本の思想家の思想内容が理解できている。	7	定期テスト ノート（板書したこと）の点検 ワークシートの提出など。
	5	第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 第3章 公共的な空間における基本的原理	西洋近現代の思想 現代の諸課題と倫理 民主社会の基本原則	・法などの社会規範の役割が理解でき、日常生活と関連づけて考察できている。 ・民主政治のあゆみが理解できている。	9	

	6		日本社会の基本原理	・日本国憲法の三大原理や第9条の内容が理解できている。 ・日本国憲法で保障されている権利が理解できている。	10	
	7 8	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義	日本の政治機構 政治参加と民主政治の課題	・日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割が理解できている。 ・市場経済のメカニズムが理解できている。	11	
2	9	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方	経済のしくみと市場機構	・金融・財政のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示できている。	8	定期テスト ノート（板書したことの点検） ワークシートの提出など。
	10		財政と金融 日本経済の発展と変化	・戦後日本経済のあゆみが理解できている。 ・産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。	7	
	11 12	第6章 国際社会の動向と日本の役割	豊かな生活と福祉の実現 国際政治の動向 国際政治の課題と日本の役割	・冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。 ・国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割が理解できている。	11	
3	1 2		国際経済の動向と国際協力 課題探究の観点 課題探究の手引き	・地域経済統合が進んでいる世界の現状が理解できている。 ・現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などが理解できている。 ・現代社会の諸問題について、探究するための資料を収集・選択し、的確に分析できている。	7	定期テスト ノート（板書したことの点検） ワークシートの提出など。

計 70 時間（50 分授業）

7 課題・提出物等

- ・授業時にグループ活動をおこなうことがあります。
- ・単元ごとに課題プリントの提出があります。
- ・長期休業中のレポートは別途指示します。

8 担当者からの一言

- ・課題を追究する活動やまとめたことを発表したりする活動があります。
- ・グループ学習や発表などの際には、積極的に参加しましょう。
- ・日頃からメディアで報道される時事的な課題に関心を持ち、調べたり論点を見いだしたりといったことにつとめてください。

（担当：澤口 大）